

奈良・天理市発

この犬たちに救いの手を！

死骸ゴロゴロ、栄養失調、運動 80頭の犬が悲鳴！



奈良県の保健所が保護に乗り出した6月当時の“現場”。タレ流し糞尿の中で皮膚病にかかり、栄養失調状態の犬30頭が“発見”された。

7匹の子犬を 拾ったのがはじまり

犬の収容所をつくったのは、ひとり暮らしの田島幸助さん(仮名・71才)だった。いまは無職の年金生活だ。

田島さんは15年ほど前から、捨て犬を拾ってきては育てるようになり、プレハブ小屋を建て、一緒に暮らしてきた。

10年前には、大和郡山市内で捨てられた猿3匹をひきとって、郡山警察署から感謝状をもらったこともあり、そう

した田島さんの「善行」が世に知られるにつれ、県内外から持てあました犬や猫を連れ込む人が多くなり、5、6年前には、ひきとった動物が200頭を超えるほどだった。

数が増えるにつれ、いろいろ問題が出てきて、まわりの苦情が増え、県のほうでも「数が多すぎてきちんと飼育がされていない。なんとか改善してほしい」

